



パイロットを目指す若者が「操縦教育体験ツアー」に参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、5月20日（土）、航空自衛隊静浜基地（焼津市）で行われた「操縦教育体験ツアー」に、高校生等を引率して参加した。

これは、航空自衛官、特にパイロットを目指す学生やその家族を対象に行われ、県内各地から航空自衛隊に高い関心を持つ28人が参加した。

パイロットを教育する訓練施設でのT-7初等練習機のシミュレーター模擬体験や管制塔の現場見学を行うとともに、翌日に行われる同基地航空祭に向けたブルーインパルスの展示飛行の予行等を見ることができた。また、元F-15パイロットや現役のパイロット学生からそれぞれの経験談や将来パイロットを目指す者の心構えを聞く等大変有意義な時間を過ごした。

参加者からは「憧れを現実にするため、頑張っていきたい」「今回様々な自衛隊の姿を見ることができ、航空自衛隊の新たな一面を知ることが出来た」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような現場を見学する貴重な機会を活用し、パイロットをはじめ陸海空の自衛官を目指す若者達が夢を叶えられるよう様々な形で親身なサポートに努めていく。



ファンを魅了、最高の静浜基地航空祭

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、5月21日（日）、焼津市の航空自衛隊静浜基地で行われた航空祭において募集広報を実施した。

今年の航空祭は天候にも恵まれたほか、事前にブルーインパルスの展示飛行が告知されたこともあり、県内外から訪れた約4万人の航空ファンや家族連れ等で朝早くから賑わった。当日は午前9時開場の予定を2時間早め、開門と同時に多くの来場者が会場を埋め尽くした。また、陸海空の各自衛隊の現場で活躍する航空機や陸上自衛隊車両の展示のほか、地元の観光PRブースや飲食店ブース等も設けられ、地域で行われる大イベントとして人気を集めた。

特にT-7初等練習機をはじめとする航空自衛隊の機体や県警へリ、同基地では4年ぶりとなるブルーインパルスの展示飛行が行われ、青い空は大きなキャンパスとなり観客を魅了した。

静岡地本は格納庫内に募集広報ブースを開設し、中・高校生を中心に自衛官採用の制度説明を行った。訪れた学生からは「将来自衛官になるにはどうしたら良いか」「パイロット志望なので、試験や訓練について詳しく知りたい」といった熱心な質問が聞かれ、担当した広報官が採用の各コース説明を行うなど、自衛隊の魅力を伝えたい。

また、今年も子供用迷彩服の試着体験や静岡地方協力本部マスコットキャラクターの「しずぽん」との記念撮影等も行い、多くの家族連れで賑わった。

静岡地本は、今後も地域のイベントを通じて自衛隊の魅力を伝え、優秀な人材を確保できるような任務に邁進していく。

